※令和４年度以降入学生用

学校番号	2003

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	高等学校　数学Ⅰ　（数研出版）						
副教材等	チャート式 解法と演習 数学Ⅰ＋Ａ（数研出版） クリアー 数学Ⅰ（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「課題を理解する→結果を予想する→解決の方法を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、自分の考えを表現、発表、議論する活動を行う。問題集（クリアー）を週末課題として課すので、その日に学んだ内容は早めに復習すること。

２　学習の到達目標

（１）　数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指す。
（２）　事象を数学的に考察する能力を培い、社会の事象などから設定した問題について、適切な手法を判断する力を養う。
（３）　数学のよさを認識し、それらを活用する態度を身につける。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけ、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につける。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析における数学的な見方や考え方を身につけている。	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用できる能力を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	数と式	整式の加法と減法乗法、因数分解、三次式の展開と因数分解実数、根号を含む式の計算、二重根号(ABCD) 不等式の性質、一次不等式、絶対値を含む方程式・不等式、絶対値と場合分け(CD)	a: 不等式や方程式についての理解を深め、事象の考察に活用することができる。 絶対値の性質を理解し、適切に扱うことができる。 b: 因数分解と展開を用いて適切に式の変形を行なうことができる。 c: 数の世界を実数まで拡張し、四則計算を活用できる。	定期考査	定期考査	週末課題 小テスト ワークシート
	二次関数	関数とグラフ、二次関数のグラフ、平行移動・対称移動、最大・最小(A) 二次関数の決定、二次方程式、x軸との位置関係、二次不等式(BCD)	a: 二次方程式の解と二次関数のグラフの関係について理解する。 数量の関係を二次不等式で表し二次関数のグラフを利用してその解を求めることができる。 b: 値の変化について、グラフを用いて考察し、最大値や最小値を求めることができる。 c: 二次関数で表される関係を見いだし、二次関数のグラフの特徴を理解し活用する。	定期考査	定期考査	週末課題 小テスト ワークシート
後期	図形と計量	三角比、三角比の相互関係、拡張(ABC) 三角比への応用、正弦定理、余弦定理、応用、三角形の面積(ACD) 空間図形への応用(BCD)	a: 三角比を平面図形の考察に活用することができる。 b: 鋭角・鈍角の三角比の意味と相互関係について理解する。 c: 正弦定理や余弦定理について理解し、それらを用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求めることを理解し活用する。	定期考査	定期考査	週末課題 小テスト ワークシート
	データの分析 整式の乗法・除法と分数式	データの整理、データの代表値、データの散らばりと四分位数、分散と標準偏差、データの相関(BCD) 二項定理・三次式因数分解・整式の除法と分数式の計算(ACD)	a: 代表値、四分位偏差、分散、標準偏差の意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握することができる。 b: 整式の割り算ができる。 c: 二項定理を用いて、係数を求め問題解決に活用しようとしている。	定期考査	定期考査	週末課題 小テスト ワークシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度